

わたなべ ゆきひさ
渡邊 幸久さん (セーリング指導/鳥取県境港市)



【経歴】(2022年4月現在)

- 2007年 京都産業大学 経済学部経済学科卒業
- 2008年 山口県立光高等学校 入職
- 2009年 山口県立光高等学校 退職
- 2009年 グローバルコムサービス株式会社 入社
- 2012年 グローバルコムサービス株式会社 退社
- 2012年 公益財団法人鳥取県体育協会入所
(現 公益財団法人鳥取県スポーツ協会)
(現在)

【表彰歴】

- 2017年、2019年 国民体育大会知事表彰
- 2021年 鳥取県スポーツ協会優秀指導者賞

【指導歴】

- 2012年 国民体育大会少年女子セーリング
スピリッツ級優勝
- 2014年 国民体育大会成年女子セーリング
スピリッツ級2位ほか
- 2015年 国民体育大会成年男子レーザー級4位ほか
- 2016年 国民体育大会成年男子レーザー級2位ほか
- 2017年 国民体育大会成年男子レーザー級優勝
- 2017年 全日本女子420級選手権優勝
- 2018年 国民体育大会成年男子レーザー級優勝
- 2019年 国民体育大会成年女子セーリング
スピリッツ級2位ほか
- 2019年 レーザー級世界選手権大会出場

渡邊幸久氏は、高校時代からセーリング競技を始め、全日本FJ級選手権大会や国民体育大会において入賞し、その後大学では全日本学生ヨット選手権大会において準優勝するなどの成績を残した。大学卒業後は、持ち前の能力にさらに磨きをかけ、国際大会にも出場するなどの活躍をしている。

2012年4月から、公益財団法人鳥取県体育協会(現 公益財団法人鳥取県スポーツ協会)職員となったことをきっかけに、指導者として選手育成に尽力し、その年の岐阜国体では持ち前のコーチングの手腕を発揮し、少年女子セーリングスピリッツ級を優勝に導き、3年ぶりに少年勢での得点獲得をもたらしている。

それ以降、少年選手のみならず成年選手の指導も行い、国民体育大会において毎年安定した競技得点の獲得に寄与している。また、国民体育大会だけでなく、2017年全日本女子420級選手権大会において、当時高校3年生であったペアを優勝に導いた功績は誠に顕著である。

また、セーリング競技は、様々な艇種がある中で、それぞれの艇種にあったセッティングが重要とされるが、全国的にこのセッティングも含めて指導できる指導者は数少なく、鳥取県のセーリング競技の発展にとって貴重な存在である。

また、選手のことを一番に考え、理論的かつ柔軟に指導し、自身も謙虚に学び続ける姿勢は他の指導者の模範となる若手指導者の一人であり、今後のさらなる活躍が期待される。

受賞の言葉

この度は、エネルギースポーツ賞という栄誉ある賞を頂戴し、大変光栄に思います。

このような賞をいただけるのは、これまで苦楽を共にした選手たちと自分を支えてくれた家族や関係者の皆様のおかげであると実感しております。

さてセーリング競技は、数あるスポーツの中で最も頭を使う競技と言われています。全艇が一斉にスタートし、ゴールまでの速さを競う競技であると同時に、波の高さや潮の流れ、風の強さなど、大自然との戦いでもあります。選手は予測の難しい自然を味方につけるため、状況に応じて他艇や自然の変化を瞬時に判断し、都度修正していかなければなりません。私の役目としては、より多くの選択肢を示し、実戦の中で活かせるように導くことだと思っています。選手が自らの力で最善の攻略法を見つけ、それを実行できた時の感動はひとしおです。

高校時代セーリングと出会い、恩師の指導を受けたことで、私の人生観は180度変わりました。恩師の“チャンスをつくり、つかめ”という教へは、競技だけでなく私生活でも活かされています。若者が競技者としてだけでなく、人として大きく成長できるよう、今後も競技の普及・育成により一層精進を重ねていく所存です。



2012年 体験会



2019年 福井国体



2019年 練習風景